



タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4602		
科目名	ゼミナールⅡ		
担当教員	工藤 聡一		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 4		
講義室	1006	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード：学修のゴールを示すディプロマポリシー（DP）との関連 DP1－E〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4－F〔探究力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP3－G〔状況把握力・判断力〕 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP6－K〔表現力・対話力〕 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7－L〔協働力・牽引力〕 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を高めることができる。 DP8－M〔省察力〕 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■CRコード：学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 E1 学識と専門技能（25%） G1 状況把握（10%） F1 探究と論拠（10%） K1 ライティング・コミュニケーション（15%） K2 オーラル・コミュニケーション（15%） L1 チームワーク（15%） M1 統合的・応用的学修（10%）		
教員の実務経験	ありません。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット：能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 完成期		
科目概要・キーワード	危機管理とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。ここでは、卒業論文につながる個人研究に関する研究方法、調査方法などを確立するために、その学術的方法論の検討と指導を行う。 授業は演習形式によります。なお、授業を補完・代替するためにオンライン授業（ライブ配信型）を取り入れる場合があります。 ■キーワード：危機管理、法学、研究論文、研究テーマ、先行研究		

授業の趣旨	■副題 国際航空法の研究 ■授業の目的 危機管理に関する研究テーマの探求、研究手法の修得、研究成果の発表の各過程、及びグループ研究の手法を通じて、①学識・専門技能（E）に加え、②探究力・課題解決力（F）、③状況把握力・判断力（G）、④表現力・対話力（K）、⑤協働力・牽引力（L）、⑥省察力（M）の各汎用的能力を開発することを目的とします。 ■授業のポイント 本演習では、学生による自主的な研究活動を通じて、国際航空法の基本問題を総合的に理解することとします。ここには、災害マネジメント、パブリックセキュリティ、グローバルセキュリティ及び情報セキュリティの4つの専門領域にわたる法学及び危機管理学的な論点が含まれます。文献の検索、整理や分析からはじめて、研究を進め、その成果をプレゼンテーション、ディベートによって表現することまでを行います。						
総合到達目標	■旺盛な関心をもって法学及び危機管理学に関する問題を論理的・批判的に考究することができる。 ・国際航空法の諸問題を、航空の実態と関連付けつつ、考察対象として認識することができる（第1回～15回）。 ・国際航空法の諸問題を、自己の経験や目標と関連付け、学修意欲につなげることができる（第1回～15回）。 ■グループ学修において他者と協調しながら問題を科学的な手法によって分析することができる。 ・国際航空法の重要問題を特定し、それに対する結論を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うことができる（第1回～15回）。 ・国際航空法の重要問題の分析を、他者との協調により多角的、批判的に行うことができる（第1回～15回）。 ■問題を論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を適切に表現することができる。 ・国際航空法に関する資料について、用語の意義や文脈を適切に把握しつつ、活用可能な知識として取り込むことができる（第1回～15回）。 ・国際航空法の諸問題について、十分な根拠をもって、必要な推論を展開することができる（第1回～15回）。 ・国際航空法の諸問題について、目的、構成、内容に配慮しつつ、分野固有の規律に従って、口頭又は文章によるコミュニケーションを適切にとることができる（第1回～15回）。						
成績評価方法	■授業参加度（15回）40%：E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1 （評価の観点）学究的な姿勢、グループにおける連携と協力の活発さを評価します。 （フィードバックの方法）演習中、必要に応じてコメントします。 ■実技・パフォーマンス（3回）60%：E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1 （評価の観点）学術研究としての水準、プレゼンテーションの技術、配布資料の完成度を評価します。 （フィードバックの方法）プレゼンテーションに引き続き、講評を行います。						
履修条件	特にありません。						
履修上の注意点							
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="467 1476 518 1518">回</th><th data-bbox="518 1476 1489 1518">内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="467 1518 518 1823">1</td><td data-bbox="518 1518 1489 1823"> ①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業目的及び半年間15回の授業の流れを理解する。（E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1） ③予習（120分） テキスト『新航空法講義』を通読し、ゼミナールⅠで学修した内容を総括する。 ④復習（120分） silm（三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル）の適用ループリックのコンピテンシーを概観する。 </td></tr> <tr> <td data-bbox="467 1823 518 2148">2</td><td data-bbox="518 1823 1489 2148"> ①授業テーマ 航空運送事業と空港経営の諸問題① ②授業概要 航空旅客運送、航空貨物運送の各事業、さらには空港の整備と運用に関する現代的問題の中から任意のトピックを選択し、グループ研究により調査分析し、レポートを作成し、最終的にディベートの形式により、解決法を立体的に把握する。 （E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1） ③予習（120分） 当該トピックについて、https://ci.nii.ac.jp/ 等を通じて文献研究を広範に行う。 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業目的及び半年間15回の授業の流れを理解する。（E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1） ③予習（120分） テキスト『新航空法講義』を通読し、ゼミナールⅠで学修した内容を総括する。 ④復習（120分） silm（三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル）の適用ループリックのコンピテンシーを概観する。	2	①授業テーマ 航空運送事業と空港経営の諸問題① ②授業概要 航空旅客運送、航空貨物運送の各事業、さらには空港の整備と運用に関する現代的問題の中から任意のトピックを選択し、グループ研究により調査分析し、レポートを作成し、最終的にディベートの形式により、解決法を立体的に把握する。 （E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1） ③予習（120分） 当該トピックについて、https://ci.nii.ac.jp/ 等を通じて文献研究を広範に行う。
回	内容						
1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業目的及び半年間15回の授業の流れを理解する。（E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1） ③予習（120分） テキスト『新航空法講義』を通読し、ゼミナールⅠで学修した内容を総括する。 ④復習（120分） silm（三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル）の適用ループリックのコンピテンシーを概観する。						
2	①授業テーマ 航空運送事業と空港経営の諸問題① ②授業概要 航空旅客運送、航空貨物運送の各事業、さらには空港の整備と運用に関する現代的問題の中から任意のトピックを選択し、グループ研究により調査分析し、レポートを作成し、最終的にディベートの形式により、解決法を立体的に把握する。 （E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1） ③予習（120分） 当該トピックについて、https://ci.nii.ac.jp/ 等を通じて文献研究を広範に行う。						

	④復習（120分） グループのメンバー間で、トピックに関する知識をアップデートする。
3	①授業テーマ 航空運送事業と空港経営の諸問題② ②授業概要 航空旅客運送、航空貨物運送の各事業、さらには空港の整備と運用に関する現代的問題の中から任意のトピックを選択し、グループ研究により調査分析し、レポートを作成し、最終的にディベートの形式により、解決法を立体的に把握する。 (E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1) ③予習（120分） 当該トピックについて、問題の背景と構造を解明する作業を行い、その要旨をプレゼンテーションの形式に整える。 ④復習（120分） グループのメンバー間で、トピックに関する知識をアップデートする。
4	①授業テーマ 航空運送事業と空港経営の諸問題③ ②授業概要 航空旅客運送、航空貨物運送の各事業、さらには空港の整備と運用に関する現代的問題の中から任意のトピックを選択し、グループ研究により調査分析し、レポートを作成し、最終的にディベートの形式により、解決法を立体的に把握する。 (E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1) ③予習（120分） 当該トピックについての調査結果を、問題に内在する対立する二つの価値を対比させて構成する。 ④復習（120分） グループのメンバー間で、トピックに関する知識をアップデートする。
5	①授業テーマ 航空運送事業と空港経営の諸問題④ ②授業概要 航空旅客運送、航空貨物運送の各事業、さらには空港の整備と運用に関する現代的問題の中から任意のトピックを選択し、グループ研究により調査分析し、レポートを作成し、最終的にディベートの形式により、解決法を立体的に把握する。 (E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1) ③予習（120分） 当該トピックについての知見を、ディベートの形式に整理する。 ④復習（120分） グループのメンバー間で、トピックに関する知識をアップデートする。
6	①授業テーマ 航空運送事業と空港経営の諸問題⑤ ②授業概要 航空旅客運送、航空貨物運送の各事業、さらには空港の整備と運用に関する現代的問題の中から任意のトピックを選択し、グループ研究により調査分析し、レポートを作成し、最終的にディベートの形式により、解決法を立体的に把握する。 (E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1) 第2回～第5回の準備のうえに、ディベートを行います。ディベートに引き続いて、講評を行います。 ③予習（120分） 当該トピックについて、ディスカッションの形で理解を深める。 ④復習（120分） グループのメンバー間で、トピックに関する知識をアップデートする。
7	①授業テーマ 国際航空運送における私法上の諸問題① ②授業概要 航空旅客運送、航空貨物運送に関する私法上の現代的問題の中から任意のトピックを選択し、グループ研究により調査分析し、レポートを作成し、最終的にディベートの形式により、解決法を立体的に把握する。(E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1) ③予習（120分） 当該トピックについて、 https://ci.nii.ac.jp/ 等を通じて文献研究を広範に行う。 ④復習（120分） グループのメンバー間で、トピックに関する知識をアップデートする。
8	①授業テーマ 国際航空運送における私法上の諸問題②

	②授業概要 航空旅客運送、航空貨物運送に関する私法上の現代的問題の中から任意のトピックを選択し、グループ研究により調査分析し、レポートを作成し、最終的にディベートの形式により、解決法を立体的に把握する。(E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1) ③予習(120分) 当該トピックについて、問題の背景と構造を解明する作業を行い、その要旨をプレゼンテーションの形式に整える。 ④復習(120分) グループのメンバー間で、トピックに関する知識をアップデートする。
9	①授業テーマ 国際航空運送における私法上の諸問題③ ②授業概要 航空旅客運送、航空貨物運送に関する私法上の現代的問題の中から任意のトピックを選択し、グループ研究により調査分析し、レポートを作成し、最終的にディベートの形式により、解決法を立体的に把握する。(E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1) ③予習(120分) 当該トピックについての調査結果を、問題に内在する対立する二つの価値を対比させて構成してくる。 ④復習(120分) グループのメンバー間で、トピックに関する知識をアップデートする。
10	①授業テーマ 国際航空運送における私法上の諸問題④ ②授業概要 航空旅客運送、航空貨物運送に関する私法上の現代的問題の中から任意のトピックを選択し、グループ研究により調査分析し、レポートを作成し、最終的にディベートの形式により、解決法を立体的に把握する。(E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1) 第11回～第13回の準備のうに、ディベートを行います。発表に引き続いて、講評を行います。 ③予習(120分) 当該トピックについての知見を、ディベートの形式に整理する。 ④復習(120分) グループのメンバー間で、トピックに関する知識をアップデートする。
11	①授業テーマ 無人航空機の商業利用に関する諸問題① ②授業概要 ②授業概要 無人航空機システム(UAS)または遠隔操縦航空機システム(RPAS)の商業利用に関する現代的問題の中から任意のトピックを選択し、グループ研究により調査分析し、レポートを作成し、最終的にディベートの形式により、解決法を立体的に把握する。(E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1) ③予習(120分) 当該トピックについて、https://ci.nii.ac.jp/等を通じて文献研究を広範に行ってくる。 ④復習(120分) グループのメンバー間で、トピックに関する知識をアップデートする。
12	①授業テーマ 無人航空機の商業利用に関する諸問題② ②授業概要 無人航空機システム(UAS)または遠隔操縦航空機システム(RPAS)の商業利用に関する現代的問題の中から任意のトピックを選択し、グループ研究により調査分析し、レポートを作成し、最終的にディベートの形式により、解決法を立体的に把握する。(E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1) ③予習(120分) 当該トピックについて、問題の背景と構造を解明する作業を行い、その要旨をプレゼンテーションの形式に整える。 ④復習(120分) グループのメンバー間で、トピックに関する知識をアップデートする。
13	①授業テーマ 無人航空機の商業利用に関する諸問題③ ②授業概要 無人航空機システム(UAS)または遠隔操縦航空機システム(RPAS)の商業利用に関する現代的問題の中から任意のトピックを選択し、グループ研究により調査分析

	し、レポートを作成し、最終的にディベートの形式により、解決法を立体的に把握する。(E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1) ③予習 (120分) 当該トピックについての調査結果を、問題に内在する対立する二つの価値を対比させて構成してくる。 ④復習 (120分) グループのメンバー間で、トピックに関する知識をアップデートする。
14	①授業テーマ 無人航空機の商業利用に関する諸問題④ ②授業概要 無人航空機システム (U A S) または遠隔操縦航空機システム (R P A S) の商業利用に関する現代的問題の中から任意のトピックを選択し、グループ研究により調査分析し、レポートを作成し、最終的にディベートの形式により、解決法を立体的に把握する。(E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1) 第11回～第13回の準備のうえに、ディベートを行います。発表に引き続いて、講評を行います。 ③予習 (120分) 当該トピックについての知見を、ディベートの形式に整理する。 ④復習 (120分) グループのメンバー間で、トピックに関する知識をアップデートする。
15	①授業テーマ まとめ ②授業概要 ゼミナールⅠ及びⅡで行った研究プロセスを振り返り、獲得した知見を確認して、価値対立を含む航空法上の問題に卒業論文の執筆を通じて切り込む準備作業を行う。(E1,F1,G1,K1,K2,L1,M1) ③予習 (120分) ゼミナールⅠ及びⅡで扱った内容をファイルする。 ④復習 (120分) 卒業論文のテーマ候補を、メインタイトル・サブタイトルの形で、最低5つ挙げる。
関連科目	①演習系科目としては、「自主創造の基礎1・2 (RMGT1215, 1216)」「危機管理基礎演習Ⅰ (RMGT2601)」「ゼミナールⅢ・Ⅳ (RMGT4603, 4604)」と関連する。とくに「ゼミナールⅢ・Ⅳ」における高度な研究活動の準備過程と位置づけられる。②講義科目については、「ロジスティクス論 (RMGT2306)」「企業取引と法 (RMGT2351)」「事故責任法制 (RMGT3402)」「テロ対策論 (RMGT3528)」「運輸保安 (RMGT3533)」「インテリジェンス概論 (RMGT1305)」「国際法 (RMGT3451)」「国際テロリズム論 (RMGT3558)」「プライバシーと法 (RMGT3472)」と関連する。
教科書	藤田勝利編『新航空法講義』(信山社, 2007年)
参考書・参考URL	(マギル大学航空宇宙法研究センターHP) https://www.mcgill.ca/iasl/centre/research (国際民間航空機関HP・セキュリティ) https://www.icao.int/Security/Pages/default.aspx (国際航空運送協会HP・セキュリティ) http://www.iata.org/whatwedo/security/Pages/index.aspx その他、授業に指示します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に指示します。 ■オフィスアワー 金曜4限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント30% ; パブリックセキュリティ30% ; グローバルセキュリティ30% ; 情報セキュリティ10% ■危機管理と法学とのバランス 危機管理40% ; 法学60%



